家族みんなで楽しく学ぼう 消防・防災フェスティバル初開催

9月29日、市発足20周年を記念した防災イベント「しこちゅ～消防・防災フェスティバル」が開催されました。

市と法皇青年会議所がタッグを組んだ今回のイベント。道路を車両通行止めにし、消防防災センター（中曽根町）一帯を使った会場には、防災に関するさまざまなブースやキッチンカーが軒を連ねました。会場には、大勢の親子連れらが訪れ、防火服を着て放水したり、救命講習で心臓マッサージを体験したりしました。他にも防災クイズやスタンプラリー、防災グッズの即売会もあり、家族で楽しく学び正しく備える一日になりました。

秋の嶺南でココロとカラダを潤す サイクリングイベント＆感謝祭

10月6日、秋の金砂湖畔公園（金砂町平野山）にサイクリストたちが集結。ゆらぎの森（新居浜市別子山）を折り返し地点とする「別子・翠波はな街道サイクリング」が開催されました。

休憩所となるてらの湖畔広場（富郷町津根山）では、「てらの・金砂湖畔広場秋の感謝祭」が開催され、サイクリストたちは、嶺南の秋の恵みを体に補給して、険しいコースに戻っていきました。

また金砂湖畔公園では、障がいのある方のスポーツ体験イベントも行われ、嶺南の自然の中で、タンデム自転車や水上自転車などに挑戦しました。

目指せオリンピック 阿部 詩 選手（パーク24）が柔道教室

9月23日、パリオリンピック柔道女子日本代表の阿部 詩選手を招いた柔道教室が伊予三島運動公園体育館でありました。

阿部選手は、トークや乱取り（表紙）を通して、オリンピックを夢見る子どもたちを指南。「応援してくれる人への感謝を忘れずに頑張って欲しい」とエールを送りました。

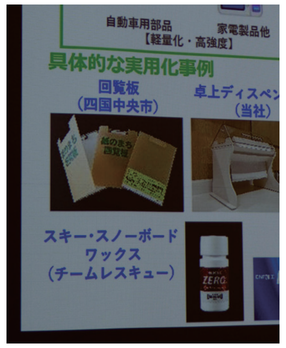
健康でいこや！四国中央 健康まつりで健康チェック

10月5日、市役所市民交流棟で「健康まつり」がありました。

血圧や血管年齢の測定、ストレスチェックのほか、クイズラリーや家庭で飲んでいる味噌汁の塩分濃度を知る企画など、自分の健康状態を「測って・知って・考える」企画は、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層から好評でした。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、市ホームページ「まちの話題」に掲載しています

CNF（セルロースナノファイバー）の最新技術が集結 展示会＆事例紹介セミナー



大王製紙株式会社
新素材事業推進室　大川淳也部長

9月26日、環境にやさしく高機能な新素材セルロースナノファイバー（CNF）製品の開発に取り組む企業などが、最新の技術を持ち寄る「四国セルロースナノファイバー展示会」（四国CNFプラットフォーム主催）がしこちゅ～ホールで開催されました。

会場には、愛媛大学を始め14社がブースを構え、担当者が自社製品や研究成果を紹介しながら、企業間で積極的に交流や情報交換をしました。

また、展示会後には「CNF実用化事例紹介セミナー」があり、本市と静岡県富士市から2社が登壇しました。大王製紙㈱の大川淳也部長は、市発足20周年を記念して製作したCNF回覧板などの開発事例のほか、現在取り組んでいる半導体材料の開発や新たに稼働するCNF複合樹脂の製造プラントについて説明しました。

11号バイパス・新法皇トンネル 篠原市長が国交省と財務省に要望

10月2日、篠原市長が国土交通省を訪問し、新法皇トンネルの整備を要望しました。

翌3日には、新居浜市長、西条市長とともに同省と財務省を訪問し、吉岡幹夫国土交通事務次官（写真中央）らに国道11号バイパスの早期整備を要望。「早期の開通に向けて頑張りたい」と回答を頂きました。

来年4月 太陽の家成人部を民営化 今人倶楽部と協定を締結

障害者支援施設「太陽の家」（妻鳥町）は、入所者の処遇向上などを目的に、昨年度から民間事業者による指定管理をしています。この度、委託先の今人倶楽部（青木 悠理事長）の管理が適正であると評価されたことから、同法人への移譲を決定し、10月1日付で移譲と運営に関する協定を締結しました。

地域の魅力に笑顔あふれる かわしん感謝祭が大盛況

9月21日、川之江信用金庫（日浦博基理事長）によるイベント「かわしん感謝祭」が、しこちゅ～ホールでありました。

マルシェや雑貨販売、はしご車搭乗体験に加え、書道パフォーマンスや和紙とミツマタのワークショップなどの市発足20周年企画で、イベントは終日大盛況でした。

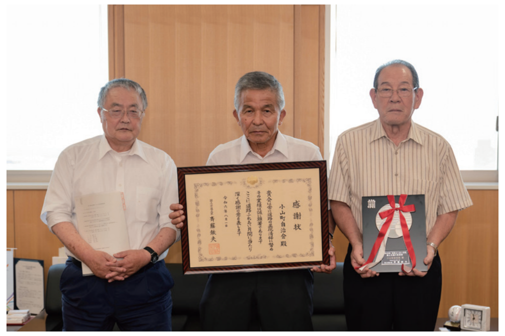
いつまでも安心して外出するために 官民連携で介護予防教室

写真　土居福祉センター（10月10日）

ユニ・チャーム㈱四国支店の森 統一（のりかず）支店長を講師に招いた介護予防教室が、市内老人クラブ連合会会員を対象に開催されました。

テーマは「健康寿命延伸」。森支店長は「歩かなければ歩けなくなります。適切な失禁対策で健康寿命を延ばしましょう」と話し、尿漏れパッドの機能や使い方を紹介しました。

道路を愛して21年 小山町自治会に国土交通大臣表彰



多年にわたる道路愛護活動が認められ、金生町下分の小山町自治会（伊藤恵治会長・写真中央）が、国土交通大臣表彰を受賞しました。同自治会は、平成15年から県道大野原川之江線の清掃活動を続けています。９月18日に篠原市長を表敬訪問した伊藤会長は、「40年、50年と続けていきたい」と話しました。

中学バレーボール日本一へ 四国中央クラブが全国大会に出場

６月の県大会で優勝した中学生バレーボールチーム「四国中央クラブ」（戸田敦子代表）が、９月14日から大阪府で開催された「ＪＶＡ全国ヤングクラブバレーボール大会」に出場しました。

大会直前の９月12日に篠原市長を表敬訪問し、「日本一を取ります」と決意を伝えました。

スタジオ・ミューのダンスチームが 全国大会で準優勝に輝く

９月19日、スタジオ・ミュー（金生町下分・藤田真希代表）のダンスチーム「ミュータントフェローズ」が篠原市長を表敬訪問し、８月に横浜市で開催された「全国ダンスコンテスト」で準優勝したことを報告しました。初出場ながら輝かしい成績を収めた同チーム。ミリ単位で調整を重ねたと振り返りました。

三島フェンシングクラブの選手が 全国大会で好成績を収める

７月に岐阜市で開催された「全国中学生フェンシング選手権大会」に出場した「三島フェンシングクラブ」（三好啓一代表）所属の星川もみじさん（三島東中３年・写真左）と石津愛美さん（川之江北中２年・同右）が篠原市長を表敬訪問し、同大会で上位の成績を収めたことを報告しました。

堂々と、そして笑顔で 東中吹奏楽部が全国大会に出場

10月８日、三島東中学校吹奏楽部の３年生７人が篠原市長を表敬訪問。８月の四国大会で金賞を受賞し、10月19日に栃木県で開催される「全日本吹奏楽コンクール」に出場することを報告しました。

同部の加地彩花（いろは）部長は「四国代表としての自覚を持ち、堂々とそして笑顔で演奏してきます」と話しました。

陸上競技で子どもたちを笑顔に 森田慎也さんを陸上競技連盟が表彰

「四国中央アスリートクラブ」で代表を務める森田慎也さんのこれまでの指導実績が評価され、日本陸上競技連盟から「安藤百福記念章」が贈られました。

９月26日、篠原市長に受賞の報告をした森田さんは、「これからも健全育成に努め、陸上競技を通じて子どもたちを笑顔にしたい」と話しました。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、市ホームページ「まちの話題」に掲載しています

安心安全で住みやすいまちへ 不動産フェアで「住まい」を考えよう

９月23日、市と県宅建協会四国中央地区連絡協議会（吉田茂生（しげお）会長）の共催イベント「不動産フェア」が金生公民館でありました。

生活雑貨の販売や整理収納セミナーのほか、宅建士や市職員などによる空き家・空き地問題無料相談会も行われ、来場者は、楽しみながら住まいについて考えていました。

おしごと体験フェスで四国中央推し 四国中央医療福祉総合学院がＰＲ

９月21日から３日間、東予の仕事が集まる「おしごと体験フェス」がイオンモール新居浜でありました。

本市からは、四国中央医療福祉総合学院が出展。子どもたちがリハビリや看護の仕事を体験しました。また来場者に「紙と港の祭典」のチラシなどを配布し、四国中央市の仕事と魅力を推しました。

ちょっとそこまで 広報SAMPO

書道が育むもの

９月19日、７月に開催された第17回書道パフォーマンス甲子園で、見事２連覇を果たした鳥取城北高校の山根亮文（あきふみ）先生から大会事務局に、写真とメッセージが届きました。

昨年秋の「書道文化醸成事業」で山根先生が訪れた、川之江南中学校の３年生（当時２年）全員から、優勝を祝福するメッセージが届いたそうです。書道を通して生まれた交流は、生徒たちの心の成長を促しているようです（９ページに関連記事）。

「箱を開けた瞬間から涙が止まりませんでした。一生の宝物です。みなさんの想いを胸に走り続け、また来年、部員たちと一緒に聖地 四国中央市に帰ってきます。好きです、四国中央市」

市長のひとりごと

選挙、勝てば官軍か？

さすがに少し暑さも和らぎ、布団が恋しくなってきた。

地方祭の太鼓の音もよく響いている。

一方、国政選挙は新聞、テレビを中心に話題が豊富である。正確かどうかあやふやな話は別にしてにぎやかである。

衆議院議員の選挙は、法律と国の借銭を決める権限を委ねることであり、一定期間そのことを委ねることになる。地方自治の選挙は別にして、大変身近で重要なことである。

好きとか嫌いとかだけで選んだらいいものではない。多くはそう言いながら好みで選んでしまうことが多い。

私も、半世紀近くその選挙に関わってきた。記憶には、楽しいことも、思い出すのも嫌だということもある。世の中の人間が抱えている欲望も、喜怒哀楽も、すべて飲み込んで決着をつけようとするのである。

今、それが行われようとしている。

勝てば官軍、とは言い切れないと思うこともたくさんある。

四国中央市長　篠原　実

太鼓台と子どもたち（10月13日撮影）